

応用ベクトル解析 ファイナルトライアル

樋口さぶろお¹ 配布: 2007-07-23 Mon 更新: Time-stamp: "2007-09-04 Tue 15:48 JST hig"

ファイナルトリアル参加案内

両面です. 全部で5問です. 外部記憶ペーパー作成10分 + 答案作成80分です.

1. 解答用紙の1面に1問ずつ, 指定された用紙に解答しよう.
2. 過程も答えよう. 最終的な答えが正しいことがわかるような過程を記そう.
3. 問題文に現れない記号を使うときは, 定義を記そう.
4. 3次元右手系 xyz -座標系を使っています. $\mathbf{r} = (x, y, z)$, $\mathbf{V} = (V_1, V_2, V_3)$.

1

ベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (y, xy^3, yz)$, スカラー場 $f(\mathbf{r}) = x + yz^2 + xyz$ を考える.

1. $\nabla \cdot \mathbf{V}$ を求めよう.
2. ∇f を求めよう.
3. 次の4つを, スカラー場, ベクトル場, 間違った式に分類しよう (具体的な形は求めなくてよい)
 - (a) $\nabla \cdot (\nabla \times \mathbf{V})$.
 - (b) $(\nabla \cdot \mathbf{V}) (\nabla f)$.
 - (c) $\nabla \times (\nabla \times f)$.
 - (d) $\nabla \times (\nabla f)$.

→ マークシート (7)

裏に進もう

¹Copyright ©2005-2007 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.
hig@math.ryukoku.ac.jp, <http://hig3.net>(講義のページもここからたどれます), へや:1号館5階502.

2

ベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (2x+z^3, 6y, 3xz^2)$ とパラメタ表示された曲線 $C: \mathbf{r}(t) = (t^2, 2t, -t)$ ($-2 \leq t \leq 0$) を考える. ただし始点 $\mathbf{r}(-2)$, 終点 $\mathbf{r}(0)$ とする. 線積分 $\int_C \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r}$ を求めよう.

→ マークシート (9)

3

パラメタ表示された曲面 $S: \mathbf{r}(s, t) = (2s \cos t, 4s \sin t, s^2 \sin(2t))$ を考える. 大注意
 z 成分だけ $\sin(2t)$ です.

1. 曲面 S の, 点 $\mathbf{r}(2, \frac{1}{4}\pi) = (2\sqrt{2}, 4\sqrt{2}, 4)$ における単位法ベクトル \mathbf{n} を求めよう.
2. 曲面 S の, 点 $\mathbf{r}(2, \frac{1}{4}\pi) = (2\sqrt{2}, 4\sqrt{2}, 4)$ における接平面の方程式またはパラメタ表示を求めよう (どちらか好きな方ひとつだけでよい).

→ マークシート (11)

4

パラメタ表示された曲面 $S: \mathbf{r}(s, t) = (t, 2t, s^2)$, ($-4 \leq s \leq 0, 0 \leq t \leq 2$), ベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (yz, xz, e^{x \sin y} + e^{y \cos x})$ を考える. 曲面 S の単位法ベクトルで y 成分が正であるものを \mathbf{n} とする. 面積分

$$\int_S \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, dS$$

を求めよう.

→ マークシート (13)

5

パラメタ表示された曲面 $S: \mathbf{r}(s, t) = (0, s \cos t, s \sin t)$ ($2 \leq s \leq 3, 0 \leq t < 2\pi$), ベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{r}) = (e^{-x^2y}, \sqrt{y^2 + z^2} \cdot z, -\sqrt{y^2 + z^2} \cdot y)$ を考える. 面積分

$$\int_S (\nabla \times \mathbf{V}) \cdot \mathbf{n} \, dS$$

を, ストークスの定理を使って線積分に書き直して計算しよう. ここで \mathbf{n} は S の単位法ベクトルで x 成分が正のものである.

→ マークシート (15)

問題はおしまい. アンケートと学籍番号欄に記入しよう.

応用ベクトル解析 ファイナルトリアル略解

樋口さぶろお² 配布: 2007-07-23 Mon 更新: Time-stamp: "2007-09-04 Tue 15:48 JST hig"

1

1. $\nabla \cdot \mathbf{V} = 0 + 3xy^2 + y$.
2. $\nabla f = (1 + yz, z^2 + xz, 2yz + xy)$.
3. (a): スカラー場, (b),(d):ベクトル場, 間違った式:(c)

講評 3. は(小さい)括弧から順に計算していけばいいですね. 1.3.(a) なら, $\nabla \times \mathbf{V}$ は回転でベクトルだから, $\nabla \cdot (\nabla \times \mathbf{V})$ はベクトル場の発散でスカラー, とかね. (b) は今回で最難関の問題? $\nabla \cdot \mathbf{V}$ はスカラー, ∇f はベクトルで, ベクトルのスカラー倍でベクトル.

2

$\nabla \times \mathbf{V} = (0, 3z^2 - 3z^2, 0) = (0, 0, 0)$. よって保存的. 超ラッキー!.

山勘により $f(\mathbf{r}) = x^2 + 3y^2 + xz^3$ とおくと, $\nabla f = \mathbf{V}$ が成立している(このことから保存的であることがわかる). よって,

$$\int_C \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} = f(\mathbf{r}(0)) - f(\mathbf{r}(-2)) = 0 - 96 = -96.$$

別の計算方法として, 素直に線積分マーク 1 の手順を踏んで,

$$\int_{-2}^0 \mathbf{V}(\mathbf{r}(t)) \cdot \frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) dt$$

を計算してもそれほど大変でなく同じ結論を得る.

講評 せっかく保存的で超ラッキーであることを示しながら, 活用していない人が多かったです...まあふつうに線積分してもそんなにたいへんじゃないんだけど.

$$\frac{\partial f}{\partial x} = 2x + z^3$$

から

$$f(x, y, z) = x^2 + xz^3 + C_1(y) + C_2(z)$$

とおいている人がいたけど, C_1, C_2 に分離するとは限りません. $C(y, z)$ とおかないといけないね.

²Copyright ©2005-2007 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

3

1.

$$\frac{\partial \mathbf{r}}{\partial s}(2, \frac{1}{4}\pi) \times \frac{\partial \mathbf{r}}{\partial t}(2, \frac{1}{4}\pi) = (\sqrt{2}, 2\sqrt{2}, 4) \times (-2\sqrt{2}, 4\sqrt{2}, 0) = 8\sqrt{2}(-2, -1, \sqrt{2}).$$

これを単位ベクトルに直すと

$$\mathbf{n} = \pm \frac{1}{\sqrt{7}}(-2, -1, \sqrt{2}).$$

2. パラメタ表示は

$$\mathbf{r}_{\text{接平面}}(s, t) = (2\sqrt{2}, 4\sqrt{2}, 4) + (\sqrt{2}, 2\sqrt{2}, 4)s + (-2\sqrt{2}, 4\sqrt{2}, 0)t.$$

方程式は、この式から s, t を消去するか、 $(\mathbf{r} - \mathbf{r}(2, \frac{1}{4}\pi)) \cdot \mathbf{n} = 0$ より

$$\begin{aligned} (-2)(x - 2\sqrt{2}) + (-1)(y - 4\sqrt{2}) + \sqrt{2}(z - 4) &= 0 \\ -2x - y + \sqrt{2}z &= -4\sqrt{2} \end{aligned}$$

講評 うーん、ちょっと係数が複雑になってしまった。ごめん。

4

$$\frac{\partial \mathbf{r}}{\partial s}(s, t) \times \frac{\partial \mathbf{r}}{\partial t}(s, t) = (0, 0, 2s) \times (1, 2, 0) = (-4s, 2s, 0).$$

単位法ベクトルはこの \pm (正の定数) 倍だが、範囲 $-4 \leq s \leq 0$ と、 y 成分 $2s$ が正という条件から、 $-$ のほうをとる。よって、

$$\begin{aligned} I &= \int_S \mathbf{V} \cdot \mathbf{n} \, dS \\ &= - \int_0^2 \left\{ \int_{-4}^0 \mathbf{V}(\mathbf{r}(s, t)) \cdot \left(\frac{\partial \mathbf{r}}{\partial s}(s, t) \times \frac{\partial \mathbf{r}}{\partial t}(s, t) \right) \, ds \right\} dt \\ &= - \int_0^2 \left\{ \int_{-4}^0 (2ts^2, ts^2, \boxed{\text{計算したくない}}) \cdot (-4s, 2s, 0) \, ds \right\} dt \\ &= \dots = -768. \end{aligned}$$

講評 ガウスの定理使おうとしてた人がいたけど、あれは S が閉曲面のときじゃなきゃ使えないよ。

5

境界 ∂S は2つの部分からなる。

$$C_2 : \mathbf{r}_2(t) = (0, 2 \cos t, 2 \sin t),$$

$$C_3 : \mathbf{r}_3(t) = (0, 3 \cos t, 3 \sin t)$$

ともに $0 \leq t < 2\pi$ だが, C_2 の始点は $r(2\pi)$, C_3 の始点は $r(0)$. ストークスの定理により,

$$\begin{aligned}
 I &= \int_S (\nabla \times \mathbf{V}) \cdot \mathbf{n} \, dS \\
 &= \int_{C_2} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} + \int_{C_3} \mathbf{V} \cdot d\mathbf{r} \\
 &= \int_{2\pi}^0 (\boxed{\text{計算したくない}}, 2 \cdot 2 \sin t, -2 \cdot 2 \cos t) \cdot (0, -2 \sin t, 2 \cos t) \, dt \\
 &\quad + \int_0^{2\pi} (\boxed{\text{計算したくない}}, 3 \cdot 3 \sin t, -3 \cdot 3 \cos t) \cdot (0, -3 \sin t, 3 \cos t) \, dt \\
 &= -(27 - 8)2\pi = -38\pi.
 \end{aligned}$$

講評 ガウスの定理使おうとしてた人がいたけど, あれは S が閉曲面のときじゃなきゃ使えないよ.

この曲面は yz 平面上にあるから, $y \rightarrow x, z \rightarrow y$ と名前をつけかえて, $[\nabla V] = (\nabla \times V)_z$ とみなしてグリーンの定理をつかってやることもできますね. 間違いやすいのでお薦めはしないけど.

お知らせ

ごめんなさい. 採点はあまり高速でできなそうです.

ファイナルトライアルのスコアは e-learning サイト <https://f5lms.media.ryukoku.ac.jp> でお知らせします. スコアが入力された際には, メールアドレス t060nnnx@mail.ryukoku-u.ac.jp に通知されます.



ただし, e-learning サイトは 2007-08-08 から 2007-09 初旬まで停止しますので, これ以前に成績を掲載することをめざしていますが, 間に合うかなあ (弱気)

<http://hig3.net>